を住民に示していく必要がある。

5　「地域医療のデータ分析と評価 - 医療体制の充実度に関する指標の開発とその適用-」

- 平成17年に山形県が実施した「山形県患者調査」にある５事業別（がん、糖尿病、虚血性心疾患、脳血管疾患及び周産期医療）のデータ解析を実施した。
- 本データは、患者総数、入院患者数及び外来患者数について、それぞれに集計されているため、解析も総数/入院/外来毎に実施した。
- 山形県内で過去に実施された調査結果のデータ解析を実施し、へき地における医療体制を充実させるための方策について、定量的に検討した。
- 各地域の医療の特徴を抽出し、それを比較するための新たな指標が必要になることから、本研究では、新たに「集約度指標」と「人口比率対患者比率超過分」という２つの指標を開発し、それらを本データに適用した。
- これらの指標に基づいて山形県内の二次医療圏間の医療体制を比較した。
- ４つの二次医療圏のうち、へき地が多く存在する最上地域についてみると、その面積に比し、人口は少ない地域である。そのため、最上地域において重点的に提供されている医療とともに、他の地域に委ねられている医療について定量的に検討した。
- その結果、最上地域における医療の集約度は他地域よりも高く、その理由のひとつは新庄病院への医療機能の集約化にあると考察された。
- 逆の観点からみると、最上地域における医療体制を部分的に分配することにより、より効率の良い医療体制を構築できる可能性が示唆された。
- 同様に、他の地域についても、仮説を立てて検討した。
- 医療政策の検討は本研究のような定量的なアプローチだけではなく、包括的な検討及び評価を行うことが必須であり、本研究の結果は、そのような試みの一環として利用されるべきであると考える。

F.健康危機情報

特になし

G.研究発表

1. 論文発表

（１）鈴木育子、叶谷由佳、赤間明子、大竹まり子、小林淳子、細谷たき子　：へき地における在宅ケアの充実に向けた方策の検討、第 11 回日本地域看護学会学術集会、投稿中

（２）叶谷由佳：08 年度新医療計画の看護への影響と対応策、看護部長通信（In press）

2. 学会発表

（1）青島耕平、上杉睦美、池田大輔、藤谷克己、河原和夫：GISを用いた救命救急センターへのアクセス時間推計に関する検討(第１報)、第66回日本公衆衛生学会総会、松山市、平成19年10月、

（2）上杉睦美、青島耕平、藤谷克己、池田大輔、河原和夫：GISを用いた救命救急センターへのアクセス時間推計に関する検討(第２報)、第66回日本公衆衛生学会総会、松山市、平成19年10月

（3）鈴木育子、叶谷由佳、大竹まり子、赤間明子、小林淳子、細谷たき子、清水博：無医地区・準無医地区住民のニーズよりとらえた保健医療福祉に関する課題の検討、第66回日本公衆衛生学会総会、松山市、平成19年10月

H.知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

Ⅱ.　分担研究報告

市町村立等診療所訪問調査実績

No.	圏	設置者	地区	施設名	診療日及び診療時間	訪問日時		山形大学	山形県
1	村山	上山市	狸森	山元診療所	火・木 内科・外科隔週 14：00～17：00	H18	12/14(木)	清水教授	大木主査
2		尾花沢市	尾花沢	中央診療所	月～金 9：00～17：00	H18	12/21(木)	清水教授	大木主査
3		西川町	岩根沢	岩根沢診療所	水 13：30～14：30	H19	1/24(水)	清水教授	國井主事
4		西川町	入間	小山診療所	隔週金 13：30～14：30	H18	12/22(金)	清水教授	武田主事
5		西川町	大井沢	大井沢診療所	月二回（水）	H18	12/20(水)	清水教授 高橋（院生）	大木主査
6		朝日町	大谷	朝日町立北部診療所	火、金 13：00～17：00	H18	12/26(火)	清水教授 高橋（院生）	佐藤主査
7	最上	舟形町	舟形	舟形診療所 （公設民営）	月～金 8：30～17：30 土 8：30～12：30	H18	12/18(月)	清水教授 高橋（院生）	長岡主査
8		真室川町	釜淵	真室川町立 釜淵診療所	月・木 8：30～16：30 火水金 8：30～12：00	H19	6/6(水)	佐藤准教授 高橋（院生）	小宮山主査 大類技師
9		真室川町	及位	真室川町立 及位診療所	火水金 13：30～15：30	H19	6/6(水)	佐藤准教授 高橋（院生）	小宮山主査 大類技師
10		大蔵村	清水	大蔵村診療所	月～木 8：30～16：30 金 8：30～18：30	H19	6/13(水)	佐藤准教授 高橋（院生）	青山主査 竹田主事
11		戸沢村	古口	中央診療所	月～金 8：30～17：00	H19	6/13(水)	佐藤准教授 高橋（院生）	青山主査 竹田主事
12	置賜	南陽市	小滝	国民健康保険 小滝診療所	火 9：00～16：00	H19	6/26(火)	佐藤准教授 渡辺（院生）	竹田主事
13		川西町	上小松	公立置賜 川西診療所	月～金 8：30～17：00	H19	8/9（木）	佐藤准教授 松浪（院生）	竹田主事
14		飯豊町	椿	飯豊町 国民健康保険診療所	月～金 9：00～17：00 水ＰＭ休診	H19	7/11(水)	佐藤准教授 高橋（院生）	竹田主事
15		飯豊町	上原	中津川診療所	月水金 9：00～12：00	H19	7/25（水）	佐藤准教授 松浪（院生）	竹田主事
16	庄内	鶴岡市	大網	鶴岡市国民健康保険 大網診療所	月水金 13：30～16：30	H19	6/27(水)	佐藤准教授 松浪（院生）	竹田主事
17		鶴岡市	上田沢	鶴岡市国民健康保険 上田沢診療所	月水金 13：30～16：30	H19	6/27(水)	佐藤准教授 松浪（院生）	竹田主事
18		酒田市	西田	酒田市国民健康保険 松山診療所	月～金 8：45～17：00	H19	2/1(木)	清水教授	大木主査
19		酒田市	地味興屋	酒田市国民健康保険 地味興屋診療所	水 13：30～14：30	松山診療所で聞き取り		清水教授	大木主査
20		酒田市	飛島	酒田市平田診療所	月～土 8:30～12:30 15:00～18:00	H19	2/1(木)	清水教授	大木主査
21		酒田市	飛島	酒田市立病院 飛島診療所	月～金 8：30～17：15	H19	6/17(日) ～18(月)	佐藤准教授 高橋（院生）	國井主事
22		酒田市	升田	酒田市立 升田診療所	木 13：30～15：30	H19	8/2（木）	佐藤准教授 渡辺（院生）	庄司主査
23		酒田市	北青沢	酒田市立 青沢診療所	火 13：30～15：30	H19	8/2（木）	佐藤准教授 渡辺（院生）	庄司主査

1　真室川町立釜淵診療所

1　訪問の状況

①日　時：平成19年6月6日（水）　９：００　～　１１：００

②対応者：釜淵診療所　小濱壽彦院長（61歳）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座　佐藤准教授、同院生　高橋
山形県健康福祉企画課　小宮山企画主査、大類技師

2　基本的事項

	項　目		備　考
1	診療所の位置	真室川町大字釜渕818-2 真室川町役場からはおよそ 10Km のところに位置しており、釜淵駅からは徒歩5分程度	役場の出張所と多目的集会所と一緒になっている
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	高齢化率は27%程度 高齢者の受診が多いものの、小児や働盛り世代の受診も少なくはない 釜淵の6km圏内の人口は1,800人。	
3	診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）	内科（木曜日のみ町立真室川病院より整形外科の医師が診察に来る）	
4	診療日時	月・木　8時30分　～17時00分 火・水・金　8時30分　～12時00分	
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元（（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等））	医師１名（内科）、但し木曜日のみ町立真室川病院より、整形外科医師が診察に来る 看護師2名、事務職員2名	医師は当所に勤務してから17年になる。
6	運営方式 （経営状況）	町立	
7	主な診療機器	レントゲン撮影装置、心電図、末梢血・CRP検査 （生化学検査については真室川病院にて検査）	
8	外来患者数（1日）	30名程度	
9	通院手段	バス・自動車・自転車･徒歩	
10	周辺の医療機関	町立真室川病院、真室川町内に開業医（姉崎医院、姉崎外科医院）	
11	周辺の福祉施設	町立病院と併設、また秋田県湯沢市内に民間のデイサービスを提供する施設がある	
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	町立真室川病院	
13	ＩＴ等の導入状況 （電子カルテ・遠隔医療）	なし	

3　地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

一次医療機関としての役割を担っているが、検査といってもエックス線、心電図程度しかないため、真室川病院へ紹介することになる。

しかし、真室川病院自体が、内科医師が不足している状況なので、診療所よりも病院のほうが状況としては深刻である。

また、真室川病院へ入院依頼しても、満床（50床あり）のことが多い状況である

4　他の機関との連携状況

①　医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

後方支援病院としては、県立新庄病院になる。新患で紹介するのはおよそ1割程度で、紹介先は真室川病院と県立新庄病院で5割ずつである。

寝たきりの人や90歳くらいの高齢者は新庄に紹介しにくい。

②　老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老ー老介護等の状況）

老人保健施設としては、ゆーゆ（真室川病院と併設）、福寿荘があげられる。

釜淵診療所としても、月1回程度往診を実施している（現在は8名、全員寝たきり）

5　在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

看取りについては、最後まで治療を積極的にやってもらいたいとう家族が多いため、看取りは少なくなってきている。

訪問看護をやっている。現在8人、全員寝たきり。

6　その他

①　新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

小児医療、周産期医療については県立新庄病院が担ってもらっている。あとは新庄市内の開業医の先生が診察をしているが、今後開業医の先生がいなくなることが懸念される。

②　代替医、集約化、医師確保について

真室川病院自体が医師不足なので、代診医を派遣してもらっている状況であることから、診療所までは手が回らないであろう。

現在、自治医大の卒業生が中心となってへき地医療を担っているが、自治医大だけでは需要に見合わなくなってきていると思われる。

実際、真室川町自体も過疎化が激しく、町に住んでいた人も新庄市や東根市、天童市といったところへ転出している状況であり、そもそも人が集まらないところには、医師も当然ながら集まらないと思う。

今後は、都会で開業するためのキャリアとして、一定期間公立の診療所で勤務してプライマリケアを学ぶことができるということや、人とのコミュニケーションを身につけられるといった、公立診療所での勤務のメリットをもっとアピールすればいいのではないか。

③　診療報酬改定に対する意見

④　その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

患者さんへのインタビュー　1

1　対応者
①性別　　女　②年齢　　２９歳　③住所（地域名）：　釜淵
④家族構成（単身等）　両親、夫、子ども（５人家族）
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　今回は風邪で受診　【持病等による継続受診ではない】
②受診頻度：　風邪などでよく利用している。（年間１０回程度）
③交通手段（状況）：自転車、徒歩
④２次医療機関：　この診療所から紹介されたことはない。
⑤時間外等の対応：　　町立真室川病院を利用。県立新庄病院へは行かない。
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）
　医師の数を増やしてほしい。及位診療所へ出張して休診になるのが不便。
⑦健診（検診）の受診状況：職場での健診を受診。また、町で実施する健診も活用している。
⑧その他

患者さんへのインタビュー　2

1　対応者
①性別　　女　②年齢　　８４歳　③住所（地域名）：　釜淵
④家族構成（単身等）　娘の夫（２人暮らし）
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：
　内科系の持病の薬をもらいに通院（腸が詰まって便が出ないことがある。）
②受診頻度：　２週間おきに受診
③交通手段（状況）：自転車
④２次医療機関：　症状が悪化すると県立新庄病院に紹介される。入院の場合もある。
⑤時間外等の対応：
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）
　診療所がなくなると大変困る。町立真室川病院へはタクシーで６千円程かかるし、バスは不便である。
⑦健診（検診）の受診状況：健診は特に受けていないが、定期的に新庄病院で検査している。
⑧その他
　同居している義理の息子は、診療所ではなく県立新庄病院へ、月２回通院している。（高コレステロール）

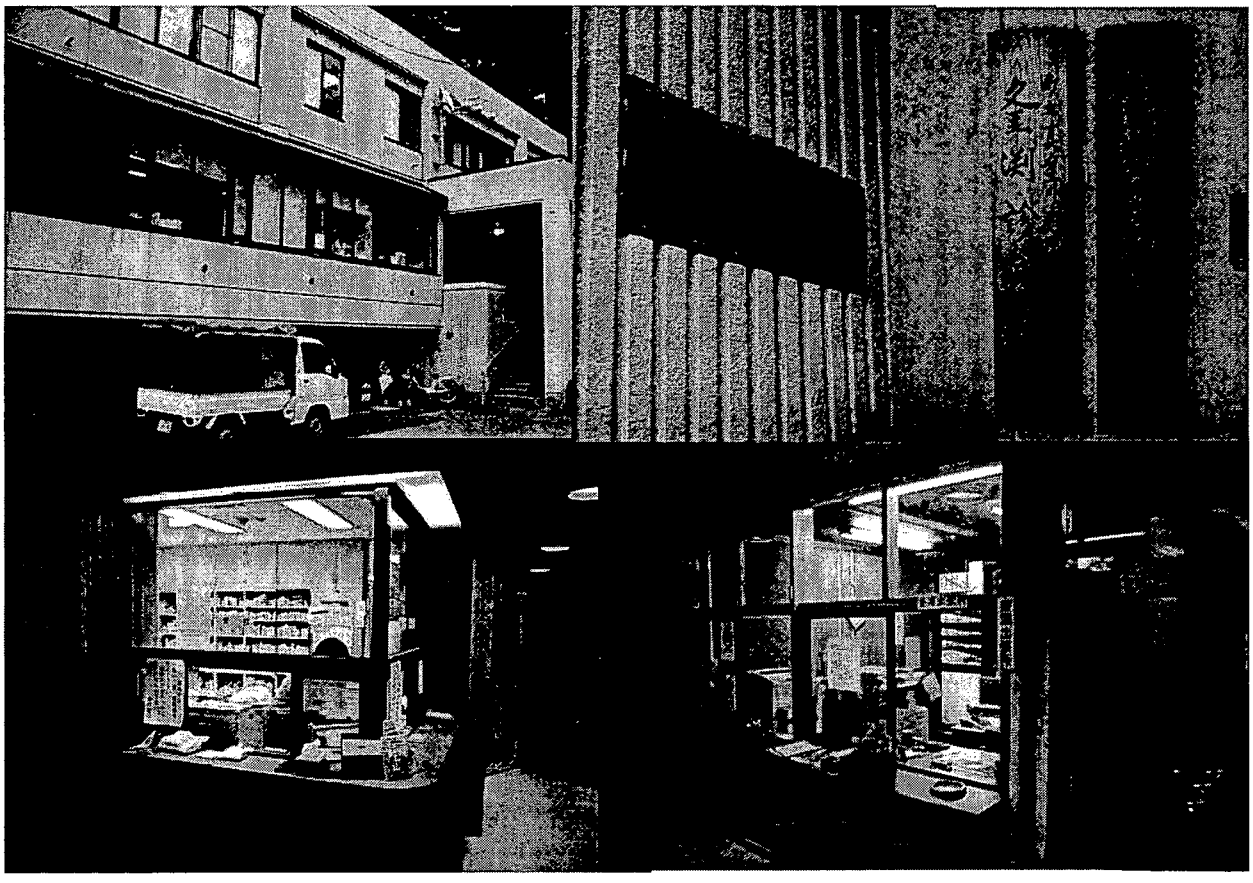
患者さんへのインタビュー　3

1　対応者
①性別　　女　②年齢 78 歳　③住所（地域名）：　釜淵
④家族構成（単身等）　２人（本人・娘）
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　内科（高血圧症）
②受診頻度：　　月１回程度
③交通手段（状況）　自家用車（送迎してもらって）５分

④２次医療機関：　　町立真室川病院　・　県立新庄病院
⑤時間外等の対応：救急車にて搬送してもらう（本人は利用していない）
搬送先：　真室川病院、県立新庄病院
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）
特になし、診療所があるおかげで安心して生活できる。とても助かっている。今のところ困っていることはない。
⑦健診（検診）の受診状況
⑧その他

患者さんへのインタビュー　4

1　対応者
①性別　　女　②年齢72歳　③住所（地域名）：　釜淵
④家族構成（単身等）3人（本人・夫・息子）
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　内科（ぜんそく）
②受診頻度：　　月1回程度
③交通手段（状況）　自家用車（送迎してもらって）5分
④２次医療機関：　　町立真室川病院　・　県立新庄病院
⑤時間外等の対応：救急車にて搬送してもらう（本人は利用していない）
搬送先：　真室川病院、県立新庄病院
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）
特になし、診療所があるおかげで安心して生活できる。とても助かっている。今のところ困っていることはない。
⑦健診（検診）の受診状況
⑧その他



2　真室川町立及位診療所

1　訪問の状況

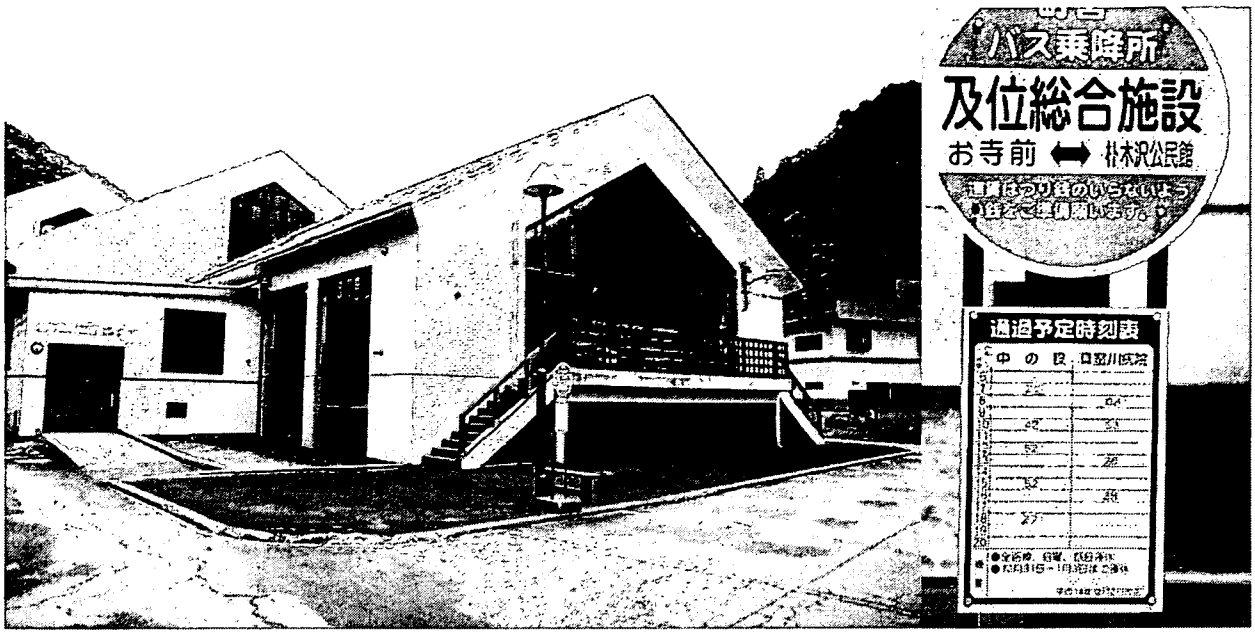
①日　時：平成19年6月6日（水）

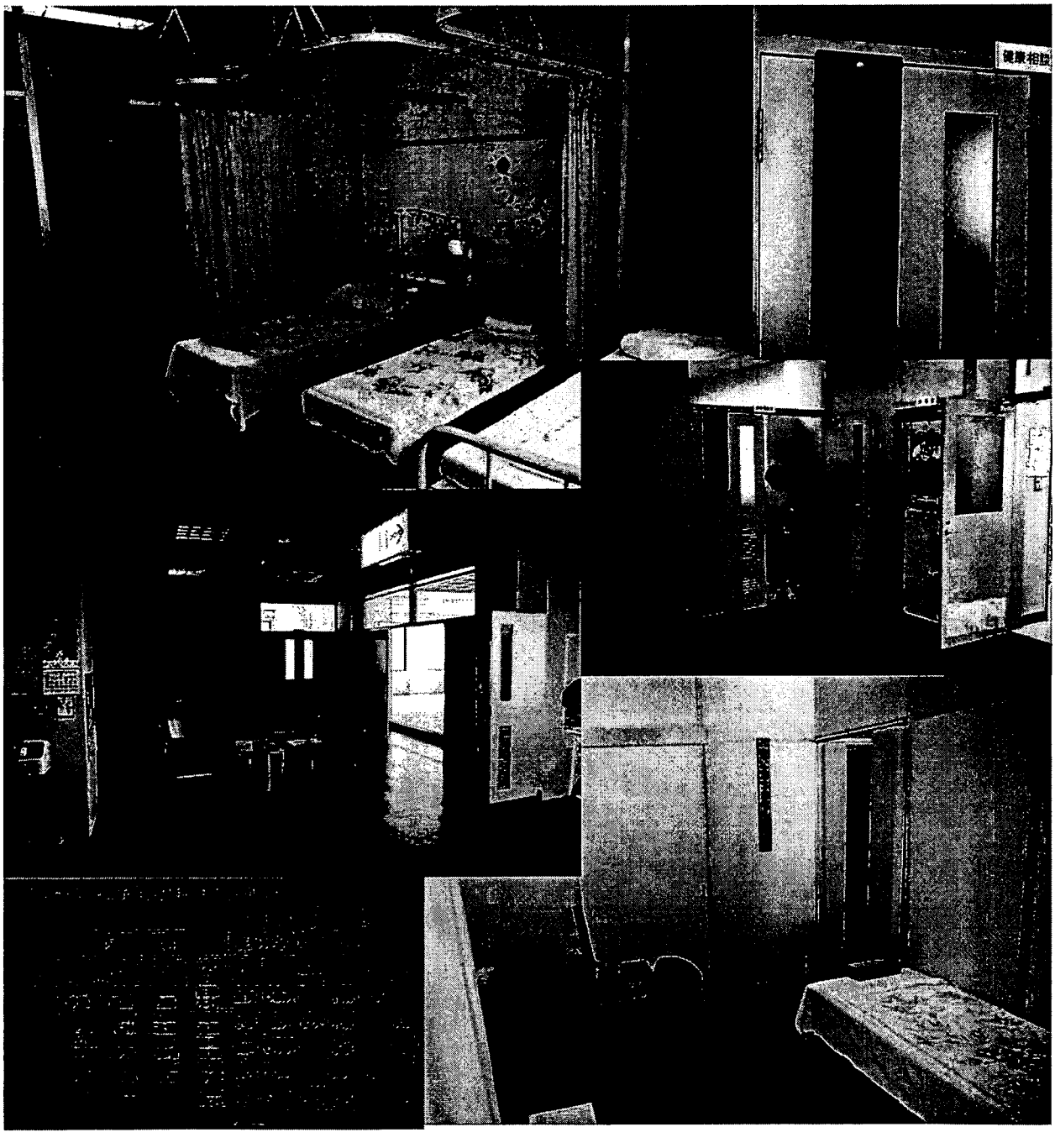
②対応者：釜淵診療所　佐藤健治主査

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座　佐藤准教授、同院生　高橋
山形県健康福祉企画課　小宮山企画主査、大類技師

2　基本的事項

	項　目		備　考
1	診療所の位置	真室川町大字及位 424-19 新庄病院まで50分、町立病院のほうが若干近い 町の出張所がある。	
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	釜淵より若干少ない人口。 高齢者の単身世帯が多い。 小学校は釜淵と統合になった	
3	診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）	内科	
4	診療日時	火・水・金　　13時30分　～ 15時30分 時　分　～　時　分	
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元（（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等））	医師1名（内科）、看護師1名、事務職員1名 常勤の看護師1名（70歳台）がいる ここを開院しているときは、釜淵診療所は休み	
6	運営方式 （経営状況）	町立	
7	主な診療機器		
8	外来患者数（1日）	10名程度	
9	通院手段		
10	周辺の医療機関		
11	周辺の福祉施設		
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制		
13	ＩＴ等の導入状況 （電子カルテ・遠隔医療）		


バス乗降所
及位総合施設
お寺前 ⟷ 朴木沢公民館
過過予定時刻表
中 の 段


健康相談

3　大蔵村診療所

1　訪問の状況

①日　時：平成19年6月13日(水)10：30～11：30

②対応者：荒川光昭　（４６歳）（平成３年～）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座　佐藤准教授、同院生　高橋
山形県健康福祉企画課　青山主査、竹田主事

2　基本的事項

	項　目	
1	診療所の位置	大蔵村大字清水 2325-3 村役場・消防署と隣接、小中学校も近い
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	人口：4,115 人（H18.10.1）、高齢化率：30.6%、高齢単身者率：高い（高齢者の夫婦も多い）、受診者の平均年齢人口：70 歳以上
3	診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)	内科・外科（総合医）皮膚科、小児科も診ている。対応できなければ紹介する。 歯科（予約のみ）
4	診療日時	月～木　　8時30分　～16時30分 金　　8時30分　～18時30分 ※午後は14:00から、水曜は午後会議・検査
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元((社) 地域医療支援機構・へき地医療支援機構等)）	・内科 医師２名、看護師５名（正職員 4）、薬剤師 1 名、助手 1 名、事務職員 2 名（正職員 1） ・歯科 医師１名、技工士１名、歯科衛生士３、レセプト業務１名
6	運営方式 （経営状況）	大蔵村立 経費：住民１人当たり１万円程度の赤字（3 千万円から 4 千万円）
7	主な診療機器	ＣＴ、エックス線、エコー　上部下部内視鏡 肺がん健診としてＣＴを活用
8	外来患者数(1 日)	平均９０人程度
9	通院手段	村営バス、徒歩、タクシーがあるが、ほとんどが車
10	周辺の医療機関	村内にはなし
11	周辺の福祉施設	特別養護老人ホーム翠明荘、８０床、ショートステイ 20 床、デイサービス
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	新庄病院・新庄徳洲会病院 （診療所での夜間・時間外は行っていないが、電話が来ることもあり）
13	ＩＴ等の導入状況 （電子カルテ・遠隔医療）	なし（歯科は電子カルテ導入）

3　地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

○医療機器の稼動率が悪いので、健診に有効活用し、医療と保健の両方を担っている。

○医療・保健が変わってきており、やりづらくなる。

・特定検診に変わると受診者が約3割減る。

（平成20年度から、各保険者が検診を行うこととなり、被扶養者の受診が減る見込み。）

診療時の患者データを使った保健指導ができなくなる。

・介護をがんばろうと思っても、最近の家族はすぐに施設へ入所させてしまう。在宅で家族が診てくれるようになれば往診にもいけるようになる。

○赤字運営

・年間30,000～40,000千円の一般会計の繰り入れを受けている。

・住民1人当たり1万円程度の赤字は、医療・保健の費用として、認めていただいている。老人医療費の少なさ等で効果が目に見えている。

4　他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

・紹介は新庄病院からが8割。徳州会から1割、中央病院・大学から1割といったところ。

・在宅で現在3人診ている

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老ー老介護等の状況）

特別養護老人ホームの嘱託医（週一回訪問）、大蔵村の人が8割入所

5　在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

6　その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

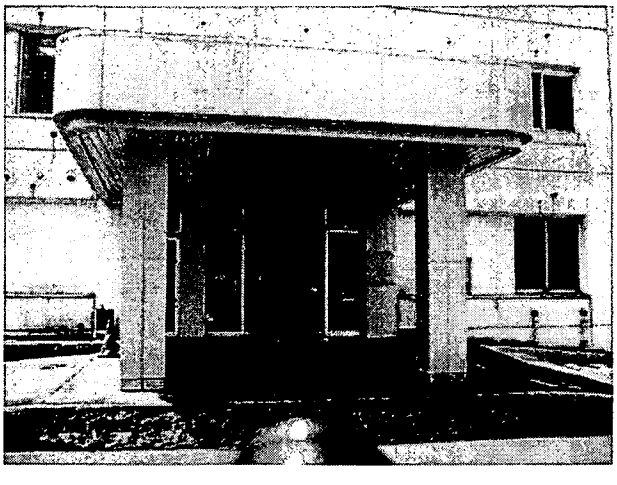
②代替医、集約化、医師確保について

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

・新庄病院の存続が地域医療にとって非常に有効。

・診療所では、内科・外科・整形外科・産婦人科など総合医として幅広く診療しており、自分だけでは不安である。地域の中核病院である新庄病院を頼りにしている。



患者さんへのインタビュー　1

1　対応者
①性別　　女　②年齢　69 歳　③住所（地域名）：清水
④家族構成（単身等）　6 人
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　コレステロール異常（健康診断）
②受診頻度：　一ヶ月に一度
③交通手段（状況）　：徒歩又は家族の送迎
④２次医療機関：　　新庄病院
⑤時間外等の対応：特になし（これまで経験なし）
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：大変助かっている。近くて便利。説明も丁寧。
⑦健診（検診）の受診状況
　毎月診てもらっている。人間ドッグも受けている。
⑧その他

患者さんへのインタビュー　2

1　対応者
①性別　　男　　②年齢　５３歳　③住所（地域名）：　合海
④家族構成（単身等）　4 人
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　人間ドッグで引っかかったため、胃潰瘍のカメラをのむ
②受診頻度：　年１回
③交通手段（状況）　車で３分
④２次医療機関：　新庄病院
⑤時間外等の対応：
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：　なし
⑦健診（検診）の受診状況：建設組合で助成が出るので、健診、脳ドッグを毎年受けている
⑧その他

患者さんへのインタビュー　3

1　対応者
①性別　　女　②年齢　69 歳　③住所（地域名）：　肘折
④家族構成（単身等）7 人（二世帯）
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　血圧
②受診頻度：　　月１回
③交通手段（状況）：車（30 分）、バス（45 分）
④２次医療機関：新庄病院（脳梗塞で２ヶ月入院）
⑤時間外等の対応：診療所でも診てくれる。
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）
　先生が２人いるが、いつも同じ先生に診てもらいたい。
⑦健診（検診）の受診状況：　毎年１回
⑧その他：診療所の人たちみんなよく知っていてくれて安心。

患者さんへのインタビュー　4

1　対応者
①性別　　男　②年齢　　２９歳　③住所（地域名）：　藤田沢地区
④家族構成（単身等）　５人　両親、妻、子ども
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　内科（かぜ）
②受診頻度：　具合悪くなったときに使う程度
③交通手段（状況）　車
④２次医療機関：　新庄病院
⑤時間外等の対応：　新庄夜間救急
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：近くにいろんな病気に対応できる大きな病院があればいい。救急車は来てくれるが、冬が心配。雪が多く除雪が追いつかない時もある。
⑦健診（検診）の受診状況：会社で毎年実施。家族は、村の中央公民館で受診している。
⑧その他

患者さんへのインタビュー　5

1　対応者
①性別　　男　②年齢　　７６歳　③住所（地域名）：　肘折地区
④家族構成（単身等）　７人　妻、息子夫婦、孫
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　内科（血圧）、歯科
②受診頻度：　２ヶ月に１回
③交通手段（状況）　普通はバス。今日は車で来た。
④２次医療機関：　新庄病院
⑤時間外等の対応：　救急車にて搬送
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：診療所があるおかげで助かっている。
自宅で旅館を営んでいるが、お客さんが倒れたとき、救急車が来るまでの時間が心配。
⑦健診（検診）の受診状況：新庄の検診センターで受診している。
⑧その他

患者さんへのインタビュー　6

1　対応者
①性別　　男　②年齢　　７０歳　③住所（地域名）：　清水地区
④家族構成（単身等）　５人　妻、息子夫婦、孫
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　内科（血圧）
②受診頻度：　毎月
③交通手段（状況）　徒歩
④２次医療機関：　県立新庄病院
⑤時間外等の対応：　救急車にて搬送
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：　県立新庄病院がなくなると困る。
⑦健診（検診）の受診状況：家族全員、中央公民館で実施するドックを年１回受診
⑧その他

4　戸沢村診療所

1　訪問の状況

①日　時：平成19年6月13日(水)14：00～15：00

②対応者：大友孝弘（52歳）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座　佐藤准教授、同院生　高橋
山形県健康福祉企画課　青山主査、竹田主事

2　基本的事項

	項　目	
1	診療所の位置	戸沢村大字古口2664-5 村役場、郵便局、国道47号線からすぐ近く、古口駅から４００m以内
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	人口：5,799 人（H18.10.1）、高齢化率：30.5%、高齢単身者率：高い、受診者の平均年齢人口：60歳ぐらい
3	診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)	内科（総合）　新庄病院で10年勤務
4	診療日時	月･水・金　8時30分　～17時00分 火・木　8時30分　～12時00分(午後は特老へ) 土（第2･第4）　8時30分　～12時00分
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元((社) 地域医療支援機構・へき地医療支援機構等)）	医師１名、看護師４名（正職員３）、事務職員２名（正職員1）
6	運営方式 （経営状況）	村立、繰入無
7	主な診療機器	胸部エックス線、エコー、上下内視鏡、心電計、透視台
8	外来患者数(1日)	平均70人程度
9	通院手段	村営バス、電車 自家用車
10	周辺の医療機関	なし
11	周辺の福祉施設	特老、さんさん（民間施設）
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	くれば対応するがこない。 新庄病院 （月２回は夜間診療所に行っている）
13	ＩＴ等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	電子カルテは今年から導入。遠隔医療については導入していたが、昨年撤去。

3　地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

新庄まで２５分という距離。人口は減少、高齢化率はどんどん上がり、今のところ赤字じゃないが、赤字になったら存続についてどう考えるか。

4　他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

新庄病院からの紹介状を持ってくる人が増えた。入院はほとんどが新庄病院、空きがない場合等は徳州会

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老ー老介護等の状況）

特老の嘱託週一回

5　在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

頼まれれば行くが、こちらから行くことはしない。

6　その他

①新医療計画：９つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

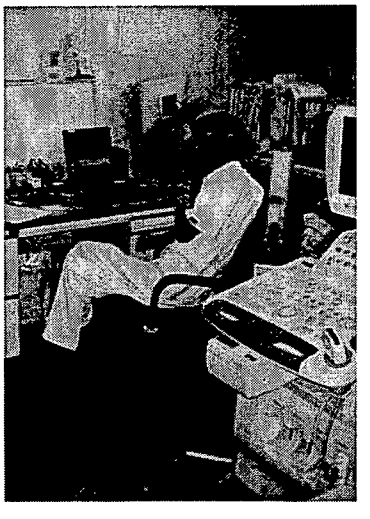
産科、小児科がこの地域に少ない。

②代替医、集約化、医師確保について

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

・最上地域は小児科が足りない。新庄病院にも医者が足りない。



5　国民健康保険小滝診療所

1　訪問の状況

①日　時：平成19年6月26日１３：３０～１５：００

②対応者：所長　金子昭雄（８０歳）（H14.4.1～現在）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座　佐藤准教授、同院生　渡辺
山形県健康福祉企画課　竹田主事

2　基本的事項

	項　目		備　考
1	診療所の位置	南陽市小滝1471 小滝地区の中心部。診療所周囲には小学校、公民館などがある。それ以外の公的機関はない。	
2	地域の状況 （人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）	小滝地区人口 302 人。高齢夫婦が多い。患者がお互い顔なじみ。受診者の平均年齢 74 歳（7名（66～92 歳）。近くに小学校があるが、子どもの受診はほとんど無い。開院のサイクル（週１回）が原因か。	小学校は複式学級（児童は 20 名程度）、保育園は数年前廃園になった。
3	診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)	内科を標榜しているが、内科以外の患者が受診しても対応している。主に高血圧、腰痛など。	
4	診療日時	毎週火曜日　１３時３０分～１５時３０分まで	
5	スタッフの状況 （異動状況、充足状況、派遣元((社) 地域医療支援機構・へき地医療支援機構等))	医師１名 看護師１名（臨時） 事務職員１名（臨時）	
6	運営方式(経営状況)	国保（特別会計）　230 万～240 万円で運営	
7	主な診療機器	なし。（以前はレントゲンなど胸部写真や心電図もあったが、現在は、診察のみ。）	
8	外来患者数(1 日)	3～4 人	
9	通院手段	徒歩 高齢者が多く、自ら運転して通院する人がほとんどいない。雨の日などは、足腰が弱く、通院できない高齢者もある。	
10	周辺の医療機関	なし （公立置賜南陽病院まで約 14ｋｍ、公立置賜総合病院まで約２３ｋｍ、山形市の診療所まで１１ｋｍ）	
11	周辺の福祉施設	なし。（入所する場合は、南陽市・山形市の施設。あまり、入所する例はない。デイサービスは宮内を利用する。）	
12	救急体制、夜間・時間外の診療体制	夜間・時間外の患者はほとんどいない。 また、患者やその家族へは、緊急事態の対応として、病状を説明の上、救急車を手配あるいは直接大きな病院へ行くように話をしているため、夜間・時間外に所長の自宅に電話がかかってくることはない。	
13	ＩＴ等の導入状況 (電子カルテ・遠隔医療)	なし。	

3　地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

・患者のほとんどが、顔見知りで、十分なコミュニケーションがとられているため、患者の症状に起因する家庭環境など、総合的に把握することができる。ある意味家庭医の役割を果たしているのではないかと思われる。

・本来であれば、患者とのコミュニケーションは本当に重要であるが、現在の医療ではそれに見合った報酬が無いため、非常によろしくない状況。

4　他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

・特筆すべき、連携は無い。

・患者のほとんどが、慢性的な疾患（高血圧）などでそれ以外は非常に安定している。

・患者に対して、健康指導も行っているためか、患者の病気が悪化することはあまり無い。

・したがって、あまり他の医療機関に紹介することはない。

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老ー老介護等の状況）

・特筆すべき、連携はない。

・小滝地区のほとんどが、家族が介護をしているため、あまり介護を受けている話を聞かない。

・寝たきりになった高齢者１名が山形市の特別養護老人ホームに入所した例はある。

5　在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

・あまり、例が無い

・高齢者が亡くなった後に、診療所に連絡が来ることがある。

6　その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

②代替医、集約化、医師確保について

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

・道路がよくなったが、過疎が止まらない。むしろ進んだ。若者は山形へ行く。

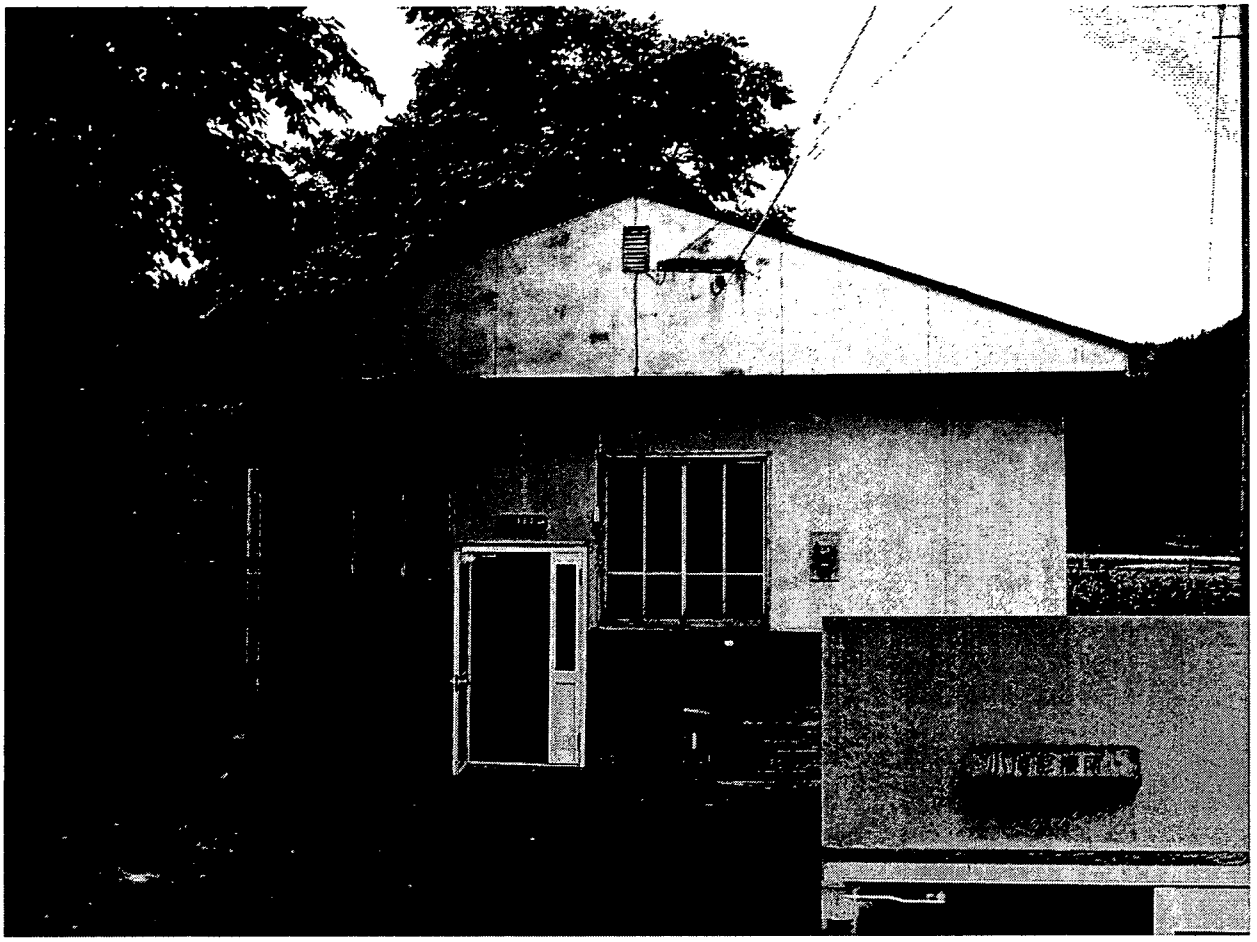
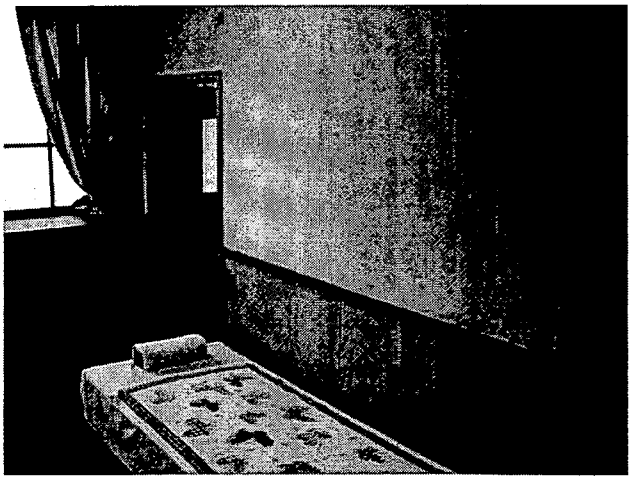
・バスは2時間に一本。住民は、冬の通院（診療所以外の病院）は我慢している。

患者さんへのインタビュー　1

1　対応者
①性別　　女　②年齢９２歳　③住所（地域名）：小滝地区
④家族構成（単身等）　３人世帯（本人、嫁、孫）
※雨天のため、患者本人が徒歩で通院することができず、薬をもらいにきた嫁にインタビュー。
①～④は患者本人のデータ
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　内科（高血圧）
②受診頻度：２週に１回（本日は、雨天のため、嫁が薬もらいのため通院）
③交通手段（状況）：徒歩（雨天時は、嫁が薬をもらいに徒歩で訪れる）
④２次医療機関：　公立置賜南陽病院
⑤時間外等の対応：特になし
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：特になし
⑦健診（検診）の受診状況
⑧その他

患者さんへのインタビュー　2

1　対応者
①性別　　男　②年齢　７４歳　③住所（地域名）：　小滝地区
④家族構成（単身等）　夫婦２人世帯
2　利用状況
①診療科（今回、通常）：　高血圧
②受診頻度：　　２週に１度。妻も同様。
③交通手段（状況）：自動車
④２次医療機関：　　公立置賜南陽病院　（現在、２ヶ月に一度の受診）
⑤時間外等の対応：緊急時は救急車を使う。
⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：とくになし
⑦健診（検診）の受診状況
小滝地区で検診を行っているので助かっている。
小滝地区以外で行うとすれば、検診に行かないだろう。
⑧その他

○周辺住民へのインタビュー（近所の飲食店にて）
【地元20代と見られる女性】
「診療所は閉鎖されている。昔はあった。地図には載っているが今はない。くわしい話はもっと年配の人に聞いてほしい。」
※若年層の中には診療所の存在を認識していない方がいるようである。

【地元高齢者ら男性５人（30代と見られる男性１名含む）】
「何十年と週一回、毎火曜日午後から診療している。以前、吉野に診療所があったが、今はない。医師は南陽市から通ってきてくれている。専門は内科、胃腸科。産婦人科、小児科は宮内か南陽まで行く。開業医はたくさんあるし、車で25分位だ。救急車は南陽から来てくれる。診療所に通っているのは3～4人だろう。」